

令和4年度 第3回 福島県立医科大学 Faculty Development

「What foreign language skills are needed for the medical profession of the future?」

開催報告

福島医大FDを以下の通り行いました。

1. 目的：
 - ・医療系学部における外国語教育の現状について理解する
 - ・今後の医療者に求められる外国語能力について考えを深める

2. 日時と場所：令和4年8月23日（火）17:00～18:30

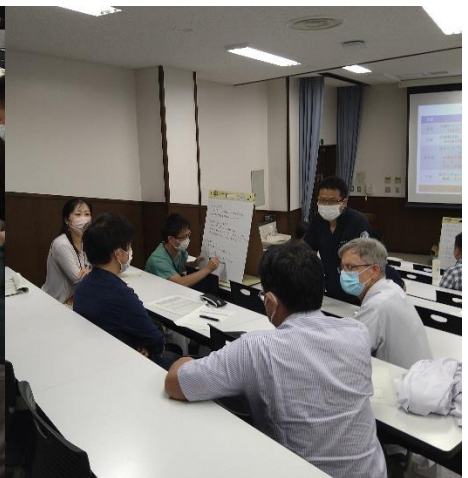
3. タイムスケジュール：（敬称略）

開始時間	所要時間	形式	講師・進行	内容
16:45				受付開始
17:00	5		大谷 晃司	開会の挨拶 講師・パネリスト・ファシリテーター紹介
17:05	10	講演	Maham Stanyon	Foreign Language skills for today's medical workforce (英語)
17:15	10	講演	會田 哲朗	将来の医療人に求められる外国語能力についてなぜ臨床医にとって外国語学習が必要か？
17:25	10	講演	後藤 あや	将来の医療人に求められる外国語能力とは？ ～研究者の立場から～
17:35	5	導入	諸井 陽子	グループワークの説明
17:40	25	GW*	各ファシリ	将来の医療人に求められる外国語カリキュラムとは？
18:05	20	全体共有	及川 沙耶佳	全体共有
18:25	5		亀岡 弥生	閉会の挨拶
18:30				終了

*ファシリテーター（敬称略）

田中 明夫（人間科学講座（言語学分野））	赤間 考洋（神経精神医学講座/医療人育成・支援センター）
會田 哲朗（総合内科）	中村 光輝（地域・家庭医療学講座/医療人育成・支援センター）
大谷 晃司（医療人育成・支援センター）	青木 俊太郎（医療人育成・支援センター）
亀岡 弥生（医療人育成・支援センター）	及川 沙耶佳（医療人育成・支援センター）
諸井 陽子（医療人育成・支援センター）	

4. 当日の様子



講演資料（一部抜粋）

- ・「Foreign Language skills for today's medical workforce」

High quality research and publications

English is the common language for academic discussion, therefore publishing in English is **important for your career**

However **how arguments are expressed and structured** in English is different

Deep translation must be used with knowledge – you must have the expertise to modify the content appropriately after direct translation (English language editing does not make the content understandable!)

Well presented English arguments **increase trust and credibility** in your work – shows “academic rigour”

Incentive:
Access to publication in journals with higher impact factors

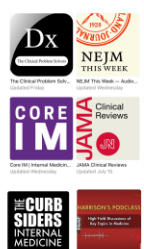
Challenges faced to foreign language skill acquisition

- COVID-19 has mandated a move to socially distanced learning** — fewer opportunities for international exposure
- Lack of time in the curriculum/competes with learning in Japanese**
- Failure to understand the culture behind the language**

I will share some of our solutions at FMU


・「将来の医療人に求められる外国語能力についてなぜ臨床医にとって外国語学習が必要か？」

Listening Journal of Medical Academics 2.2 (2019): 58-60.




Listeningでinputを加速

- Podcastで通勤中に情報を得る
- Harrisonで短めの音源で学習
- JAMA clinical review, Core IM, CURB SIDERSは臨床の特集
- The Clinical Problem Solvingは臨床推論
- youtubeでも様々学習可能



私が考える学部外国語教育（私見）


- 症候論などを一部英語で行ってもいいかもしれない。
- 学部早期より二次文献など英語で調べ、単語に慣れる。
- 英語での試験問題もあった方がよい。（国試でも出題。USMLEやMKSAPには良問あり）
- medical termを英語で書くと点数up.
- 学部時代から英語でプレゼンする機会を。
- 英語学習の楽しさを伝える。



・「将来の医療人に求められる外国語能力とは？～研究者の立場から～」

研究に必要な語学力

- 研究準備：読む、書く
- 研究打合せ：(対面、オンライン)聞く、話す (メール)書く、読む
- 学会発表：話す、聞く
- 論文作成：読む、書く



流畅であることが目標ではない
伝わる、理解する、仕事が進むことが大事

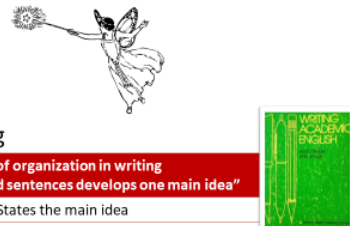
SLIDE 8

学んで便利だったこと(英語)

- ❖ “What” & “Why”
- ❖ Paragraph writing

“Paragraph is a basic unit of organization in writing in which a group of related sentences develops one main idea”

Topic sentence	States the main idea
Supporting sentences	Give supporting evidence
(Concluding sentence)	Leaves the reader with important points to remember.



Oshima A, Hogue A. Writing academic English. Fourth edition. Pearson ESL.

SLIDE 10

5. グループワーク

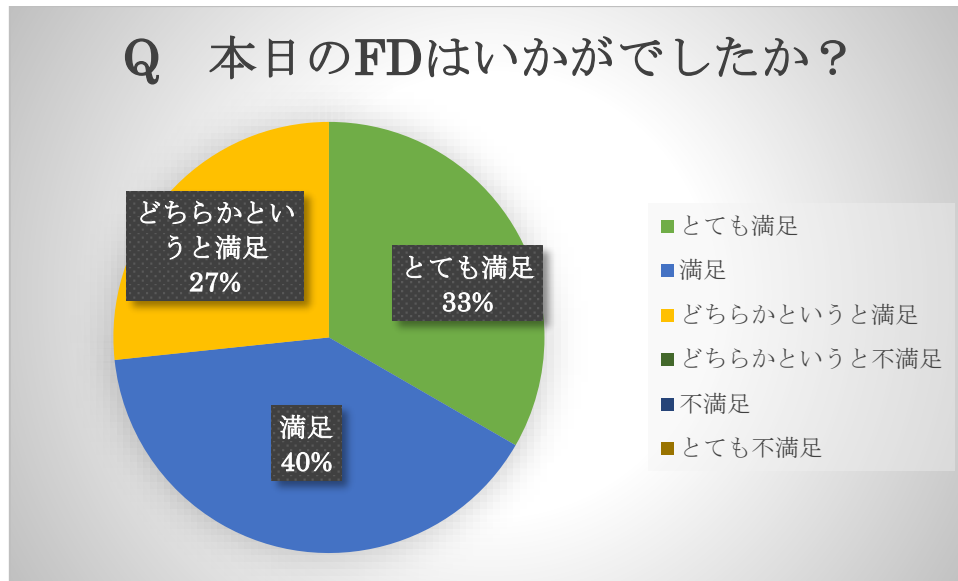
グループワークでは、「これから生きる医療人に対して、大学ではどのような外国語カリキュラムが必要だと思いますか？具体的な教育方法や評価方法などについて自由にお答えください」という内容で話し合いをしてみました。

以下グループワークで出たご意見

- 日本語でしっかり学んでから英語を追加で学ぶ、ということが必要である。英語を話さなくてはならない状況を作り出し、日本語と共に学生の英語力を評価していくと良いのでは
- 自分の身近なことを英語でレポートなどにまとめてもらい、英語でプレゼンテーションをする機会を複数回設けて、その向上度合などを評価する
- Writing を基礎として、能力向上を図ることが必要であると考えた。Paragraph Writing で臨床実習で得た経験について作文してもらい、それを繰り返す。Short Speech として何かの単語を別の言葉で言い換えてもらう訓練をすることが必要。Listening については何らかの Web サービスを利用してはどうか。評価としては作文したものや話している内容を指導者と同級生の両方で評価してもらう。Listening の評価としては単語テストを毎週繰り返す、などを考えた。
- 高学年では英語に触れる機会が少ないと思われる。この時期に行われる授業で英語を使って専門的な内容に触れてもらう機会を作ったり、試験では英語で答えるような内容を出題してもらう。
- 1年生のうちから留学経験をしてもらう（英語を学ぶ必要性を感じてもらうため）。また、授業を全て英語で行うという機会を設ける。教員も授業を完全に英語で行い、そういった風土を作っていく。

6. 参加者アンケートより

18 名の方にご参加いただき、15 名の方から事後アンケートの提出がありました。(回収率 83.3%)。



参加者からのコメントの一部を抜粋します。

- 英語教育の重要性やどうやって学生のモチベーションを上げるかなど、興味深く参加させていただいた
- 学内で英語教育が必要だと考えている先生方と話をする機会を得られてよかった
- 教員に必要な TOEFL や IELTS のスコアを具体的に示してほしい
- 英語教育の現状を知ることができた
- 立場の異なる先生方の考えを聞いたのが刺激になった
- 人数がもう少し多い方がいい
- 時間通りに終わってほしい
- 講師の先生が紹介されたサイトやツールを知ることができてよかった。このようなサイトやツールを学生や医療従事者にも紹介して使えるようにした方がよい

アンケートでは、他科の教員と意見を交換しながら英語教育について討議をしたことに対する好意的なご意見がありました。「本日の講義の内容はぜひ学生にも周知すべきである」というご意見もいただき、本学の英語教育や外国語教育の在り方について、学生も含めてアイデアを出し合っていく必要性を実感しました。英語を使う機会を増やす、という風土作りは教員のみでは完結せず、今後は学生の参加も促して、さらなる FD の開発に取り組んでいきたいと思っております。

文責 医療人育成・支援センター 及川